

医工連携推進機構の概要



日本の技術を、
いのちのために。

2016年10月
医工連携推進機構 理事
久保田博南

医工連携推進機構概要

「医工連携」により、我が国の医療機器開発の促進及び国民への医療サービスの高度化を目指すNPO法人

平成19年NPO法人として10月26日設立

(当初、コーディネータ協議会の事務局として設立)

(役員)(平成28年5月24日現在 下線28年新任)

理事長 立石 哲也 (独)産業技術総合研究所 名誉リサーチャー

(独)物質・材料研究機構 名誉フェロー

副理事長 許 俊鋭 東京都健康長寿医療センター センター長

副理事長 古川 孝 (株)トーイツ 監査役

副理事長 徳増有治 大阪大学大学院医学系研究科 特任教授

理事 久保田 博南 ケイ・アンド・ケイ ジャパン(株) 代表取締役

理事 西尾 治一 (株)ドゥリサーチ研究所 代表取締役

理事 福井 康裕 東京電機大学 参与

理事 増澤 徹 茨城大学工学部 教授

理事 森尾 康二 医療・健康ビジネス開発コーディネイター

専務理事 笠井 浩 元経済産業省 医療福祉機器技術企画官

監事 三澤裕 テルモ株式会社 秘書室 産業政策 部長

「コーディネータ協議会」

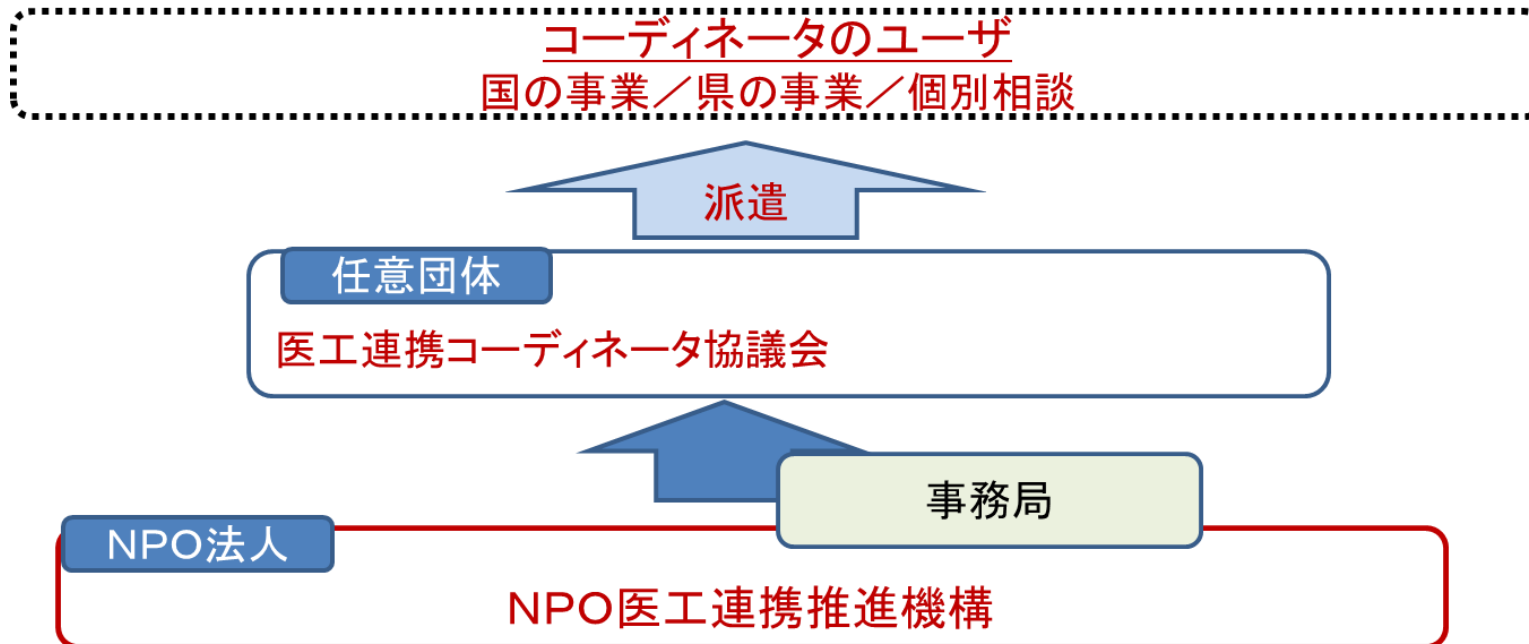
医工連携コーディネータ協議会の発足(平成17年5月26日)

発起人56名でスタート:現在170名が登録
(設立時役員)

会長:立石 哲也 独立行政法人物質・材料研究機構 フェロー
(元東京大学工学部教授)

副会長:大橋 俊夫 信州大学医学部長

事務局長:笠井浩(元経済産業省)



NPO医工連携推進機構の主要事業

(1) 伴走コンサル(支援ネットへの派遣)の実施
ー 医工連携コーディネータの派遣

(2) 学会等の研究会への講師、コーディネータの派遣

① 第48回日本生体医工学会大会:21年度4月23日 医工連携セッションの企画、運営

② 第84回日本医療機器学会大会のシンポジウム:21年5月14～16日

シンポジウム:医療機器開発への新たな取り組み ー(医工連携の最近の動向)の企画、運営

④ 地域クラスターセミナーin 福島:平成20年11月20日

セミナー「医療機器関連の新産業創出と地域経済の活性化～医療機器クラスターの
新潮流～」にコーディネータを派遣

……その後現在まで多数受託

(3) セミナー等の開催

関西大学／NPO法人医工連携推進機構 共同開催セミナー

日時:平成20年10月17日(金曜)午後5時～7時

……その後現在まで多数開催

(4) コンサル一括契約

広島県(平成23年度～)、千葉県、群馬県とコーディネータ派遣／技術評価事業を一括契約

特に、広島県とは、メール相談事業などの新規取り組みを実施中。

(5) 出版事業

「医療機器への参入のためのガイドブック」

平成22年10月1日出版(薬事日報社)

「医療機器参入のためのスタディブック」

平成25年10月1日出版(薬事日報社)



「課題解決型」事業へのコーディネータ派遣協力
(現:「医工連携型」事業)

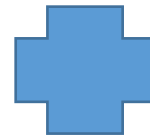
23年度年度第一次補正予算の経済産業省の「課題解決型事業」
(「課題解決型医療機器の開発・改良に向けた病院・企業間の連携支援事業」)
受託企業(36社)に対する事業化支援のためのコーディネータ派遣事業を実施



「伴走コンサル」のシステム(概念)を導入



医工連携型事業(伴走コンサルとして)支援



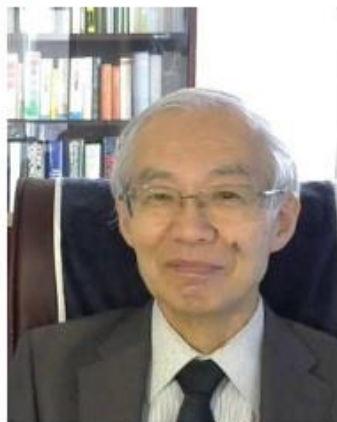
支援ネットワーク(伴走コンサル)へと発展

医工連携推進キーマンの紹介

伴走コンサルタント（個人）

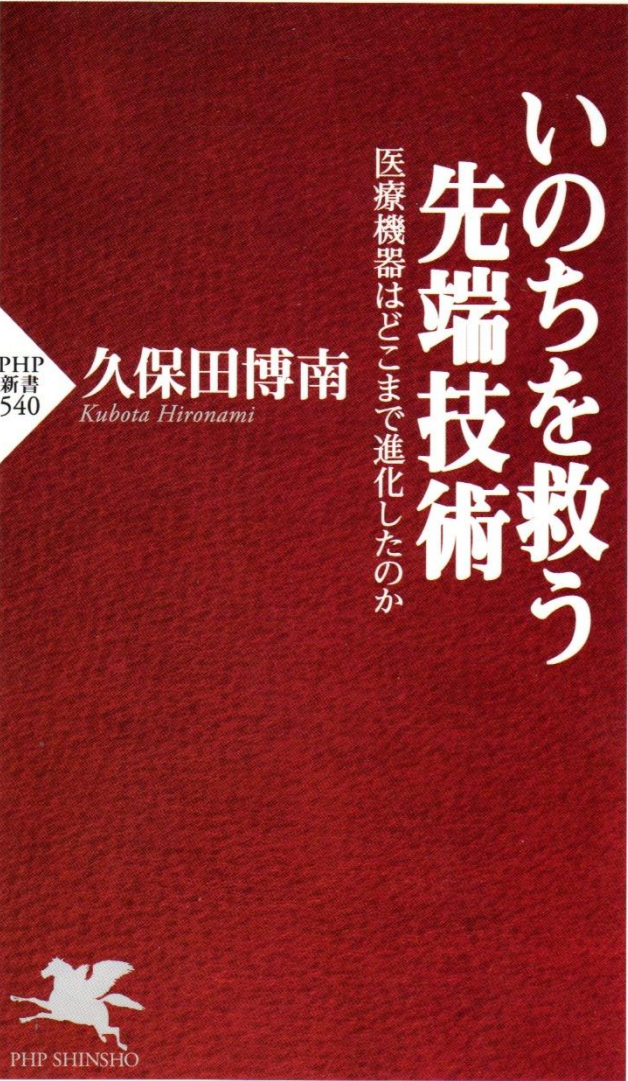
開発支援ネットワークでは、薬事、知財、事業化支援の専門組織・専門家を中心に約70名の伴走コンサルタントを紹介しています。ここでは個人として参加されている主なコンサルタントを紹介します（随時更新予定）。

久保田 博南



[ケイ・アンド・ケイ ジャパン株式会社](#) 代表取締役

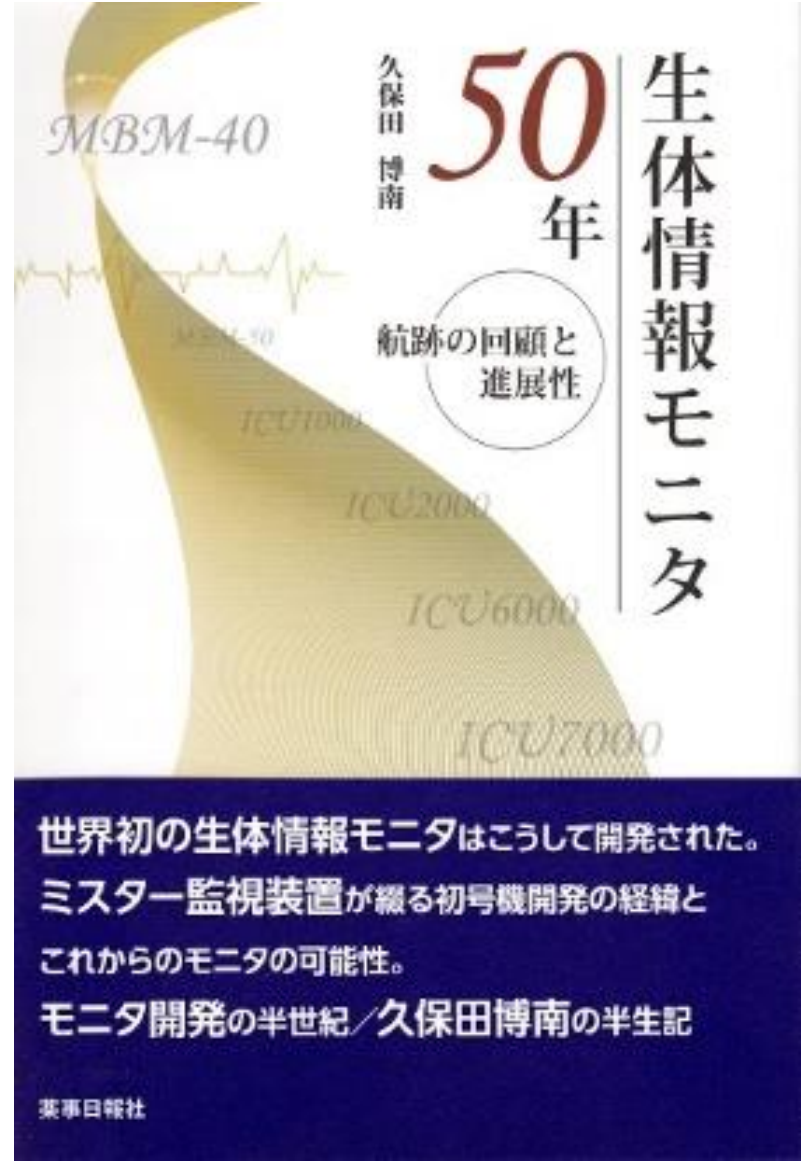
1963年に群馬大学 電気工学科を卒業後、日本光電工業に入社。医療機器の研究開発に従事。世界初となる生体情報モニタ、ワイヤレス式の生体情報モニタを、それぞれ1965年、1976年に商品化。1994年にケイ・アンド・ケイ ジャパンを設立し、現在に至る。医工連携推進機構理事、ISO委員、医療機器学会編集委員、医療機器ビジネスコンサルタント、サイエンス・ライターとしても活躍。著書に『生体情報モニタ50年』、『医療機器の歴史』、『いのちを救う先端技術』など多数。



(2008年刊)



(2010年刊)



(2016年刊)